

# 組織目標評価報告書（令和3年度）

部局名: **医学部医学科**

部局長名: **豊岡 伸一**

目標・取組	目標・取組の実施状況(成果)及び新たに生じた課題等 (部局での検証とそれに対する取組)						
<b>①教育領域</b>							
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="width: 40%;"></th> <th style="width: 10%; text-align: center;">関連する 年度計画の番号</th> <th style="width: 50%;"></th> </tr> <tr> <td>1.入試倍率・休学率改善への取組み ①ホームページをはじめとする広報の促進(入試倍率3.0倍以上) ②令和4年度医学科一般入試において、1次・2次科目比率の変更による入試とカリキュラム内容との整合性確保を強化する。 ③学生のメンタルヘルスに関する支援体制の確保と意識の醸成(休学率0.4%以下) 2.本学医学科における特色ある教育内容・手法の企画・実施 ①デジタル技術を活用した個別最適学習のツール導入と必要に応じた遠隔講義・実習の実施促進 3. 医師国家試験合格者を全国平均以上に維持する。</td> <td style="text-align: center;">5① 6② 14① 18①</td> <td> <b>教育領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等</b>                       1.入試倍率・休学率改善への取組み                      ①2021年11月1日より医学部及び医学科のホームページをリニューアルし、広報促進を図った。特に、コロナ禍もあり、オンデマンドに加えてwebライブ配信を行ったオープンキャンパスにおいては、全国から500名を超える参加者が得られ、web配信の利点が見えた。ライブ配信では活発な質疑応答が行われ、参加者からのアンケート結果でも高い評価が得られた。このような広報活動の成果もあり、入試倍率は昨年度の3.7倍から5.5倍へと飛躍的に上昇。例年ほとんど出願者がいない東北地方からの出願も見られ、埼玉からの出願は昨年度の2名から15名、東京からの出願は昨年度の16名から51名と関東地方からの出願が大きく増えた。                      ②1次・2次科目比率の変更を行い、入試倍率上昇に寄与した。また、2次において英語・数学の重点化を行うことにより、現行のカリキュラム内容との整合性強化を図った。                      ③コロナ禍のため、学生のメンタルヘルス悪化の懸念、また経済的な困窮の心配のため、医学部学生実態調査を実施。保健学科も合わせ1023名から回答が得られた。結果としては、特に3年生でメンタルヘルスの問題を抱えている生徒が多かったため、追加の面談の機会を設定。また、経済的困窮を抱えている生徒の方が、メンタルヘルスの問題も抱えていたため、経済的支援の検討も行った。今年度の休学者は1名のみで、全医学科生の0.1%であった。                       2.本学医学科における特色ある教育内容・手法の企画・実施                      遠隔講義・実習の実施促進のため、実習経費を配分し、実習機器の充足を図った。                       3. 医師国家試験合格率                      合格率は新卒で94.3%(全国平均95.0%)と僅かに及ばなかったことから、状況を分析し次年度に向けて改善すべく関係委員会で検討予定としている。                 </td> </tr> </table>		関連する 年度計画の番号		1.入試倍率・休学率改善への取組み ①ホームページをはじめとする広報の促進(入試倍率3.0倍以上) ②令和4年度医学科一般入試において、1次・2次科目比率の変更による入試とカリキュラム内容との整合性確保を強化する。 ③学生のメンタルヘルスに関する支援体制の確保と意識の醸成(休学率0.4%以下) 2.本学医学科における特色ある教育内容・手法の企画・実施 ①デジタル技術を活用した個別最適学習のツール導入と必要に応じた遠隔講義・実習の実施促進 3. 医師国家試験合格者を全国平均以上に維持する。	5① 6② 14① 18①	<b>教育領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等</b>  1.入試倍率・休学率改善への取組み ①2021年11月1日より医学部及び医学科のホームページをリニューアルし、広報促進を図った。特に、コロナ禍もあり、オンデマンドに加えてwebライブ配信を行ったオープンキャンパスにおいては、全国から500名を超える参加者が得られ、web配信の利点が見えた。ライブ配信では活発な質疑応答が行われ、参加者からのアンケート結果でも高い評価が得られた。このような広報活動の成果もあり、入試倍率は昨年度の3.7倍から5.5倍へと飛躍的に上昇。例年ほとんど出願者がいない東北地方からの出願も見られ、埼玉からの出願は昨年度の2名から15名、東京からの出願は昨年度の16名から51名と関東地方からの出願が大きく増えた。 ②1次・2次科目比率の変更を行い、入試倍率上昇に寄与した。また、2次において英語・数学の重点化を行うことにより、現行のカリキュラム内容との整合性強化を図った。 ③コロナ禍のため、学生のメンタルヘルス悪化の懸念、また経済的な困窮の心配のため、医学部学生実態調査を実施。保健学科も合わせ1023名から回答が得られた。結果としては、特に3年生でメンタルヘルスの問題を抱えている生徒が多かったため、追加の面談の機会を設定。また、経済的困窮を抱えている生徒の方が、メンタルヘルスの問題も抱えていたため、経済的支援の検討も行った。今年度の休学者は1名のみで、全医学科生の0.1%であった。  2.本学医学科における特色ある教育内容・手法の企画・実施 遠隔講義・実習の実施促進のため、実習経費を配分し、実習機器の充足を図った。  3. 医師国家試験合格率 合格率は新卒で94.3%(全国平均95.0%)と僅かに及ばなかったことから、状況を分析し次年度に向けて改善すべく関係委員会で検討予定としている。	
	関連する 年度計画の番号						
1.入試倍率・休学率改善への取組み ①ホームページをはじめとする広報の促進(入試倍率3.0倍以上) ②令和4年度医学科一般入試において、1次・2次科目比率の変更による入試とカリキュラム内容との整合性確保を強化する。 ③学生のメンタルヘルスに関する支援体制の確保と意識の醸成(休学率0.4%以下) 2.本学医学科における特色ある教育内容・手法の企画・実施 ①デジタル技術を活用した個別最適学習のツール導入と必要に応じた遠隔講義・実習の実施促進 3. 医師国家試験合格者を全国平均以上に維持する。	5① 6② 14① 18①	<b>教育領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等</b>  1.入試倍率・休学率改善への取組み ①2021年11月1日より医学部及び医学科のホームページをリニューアルし、広報促進を図った。特に、コロナ禍もあり、オンデマンドに加えてwebライブ配信を行ったオープンキャンパスにおいては、全国から500名を超える参加者が得られ、web配信の利点が見えた。ライブ配信では活発な質疑応答が行われ、参加者からのアンケート結果でも高い評価が得られた。このような広報活動の成果もあり、入試倍率は昨年度の3.7倍から5.5倍へと飛躍的に上昇。例年ほとんど出願者がいない東北地方からの出願も見られ、埼玉からの出願は昨年度の2名から15名、東京からの出願は昨年度の16名から51名と関東地方からの出願が大きく増えた。 ②1次・2次科目比率の変更を行い、入試倍率上昇に寄与した。また、2次において英語・数学の重点化を行うことにより、現行のカリキュラム内容との整合性強化を図った。 ③コロナ禍のため、学生のメンタルヘルス悪化の懸念、また経済的な困窮の心配のため、医学部学生実態調査を実施。保健学科も合わせ1023名から回答が得られた。結果としては、特に3年生でメンタルヘルスの問題を抱えている生徒が多かったため、追加の面談の機会を設定。また、経済的困窮を抱えている生徒の方が、メンタルヘルスの問題も抱えていたため、経済的支援の検討も行った。今年度の休学者は1名のみで、全医学科生の0.1%であった。  2.本学医学科における特色ある教育内容・手法の企画・実施 遠隔講義・実習の実施促進のため、実習経費を配分し、実習機器の充足を図った。  3. 医師国家試験合格率 合格率は新卒で94.3%(全国平均95.0%)と僅かに及ばなかったことから、状況を分析し次年度に向けて改善すべく関係委員会で検討予定としている。					
<b>②研究領域</b>							
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="width: 40%;"></th> <th style="width: 10%; text-align: center;">関連する 年度計画の番号</th> <th style="width: 50%;"></th> </tr> <tr> <td>SDGs推進大学である岡山大学の研究を、がんゲノム医療中核拠点病院・臨床研究中核病院・橋渡し研究戦略的推進プログラムとしての革新的医療技術創出拠点病院である岡山大学病院と連携しながら進める。 ① SDGs達成に向けた研究の取組:事例集を第7次までで発行している。研究科として取組事例を増やすため、各教室に現在のプロジェクトの提供、新たなプロジェクトの取組を依頼する。 ② がんゲノム医療中核拠点病院・臨床研究中核病院としての活動を岡山大学病院と共に推進する。 ③ 橋渡し研究戦略的推進プログラムの事業を推進し、学内外のシーズの発掘に努める。 ④ 医療系等研究開発戦略委員会:科研費の獲得数を増加させるため、各教室における科研費応募資格者が確実に応募するように働きかける。科研費の応募に関して振り返り添削や予備添削を進める。学内、学外との共同研究のきっかけを作るため、ブレインストーミング(セミナー)を企画する。 ⑤ 業績における国際共著の重要性について研究科内で周知し、研究内容について国際共同研究を促進させる。研究広報で海外での本研究科の知名度を向上させる。 (再掲:医歯薬学総合研究科(医学系) ②研究領域)</td> <td style="text-align: center;">27-① 27-1 33-1 38-1 40-1 49-② 50-① 60-2 61-①</td> <td> <b>研究領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等</b>                       ・研究に関しては研究科に記載                 </td> </tr> </table>		関連する 年度計画の番号		SDGs推進大学である岡山大学の研究を、がんゲノム医療中核拠点病院・臨床研究中核病院・橋渡し研究戦略的推進プログラムとしての革新的医療技術創出拠点病院である岡山大学病院と連携しながら進める。 ① SDGs達成に向けた研究の取組:事例集を第7次までで発行している。研究科として取組事例を増やすため、各教室に現在のプロジェクトの提供、新たなプロジェクトの取組を依頼する。 ② がんゲノム医療中核拠点病院・臨床研究中核病院としての活動を岡山大学病院と共に推進する。 ③ 橋渡し研究戦略的推進プログラムの事業を推進し、学内外のシーズの発掘に努める。 ④ 医療系等研究開発戦略委員会:科研費の獲得数を増加させるため、各教室における科研費応募資格者が確実に応募するように働きかける。科研費の応募に関して振り返り添削や予備添削を進める。学内、学外との共同研究のきっかけを作るため、ブレインストーミング(セミナー)を企画する。 ⑤ 業績における国際共著の重要性について研究科内で周知し、研究内容について国際共同研究を促進させる。研究広報で海外での本研究科の知名度を向上させる。 (再掲:医歯薬学総合研究科(医学系) ②研究領域)	27-① 27-1 33-1 38-1 40-1 49-② 50-① 60-2 61-①	<b>研究領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等</b>  ・研究に関しては研究科に記載	
	関連する 年度計画の番号						
SDGs推進大学である岡山大学の研究を、がんゲノム医療中核拠点病院・臨床研究中核病院・橋渡し研究戦略的推進プログラムとしての革新的医療技術創出拠点病院である岡山大学病院と連携しながら進める。 ① SDGs達成に向けた研究の取組:事例集を第7次までで発行している。研究科として取組事例を増やすため、各教室に現在のプロジェクトの提供、新たなプロジェクトの取組を依頼する。 ② がんゲノム医療中核拠点病院・臨床研究中核病院としての活動を岡山大学病院と共に推進する。 ③ 橋渡し研究戦略的推進プログラムの事業を推進し、学内外のシーズの発掘に努める。 ④ 医療系等研究開発戦略委員会:科研費の獲得数を増加させるため、各教室における科研費応募資格者が確実に応募するように働きかける。科研費の応募に関して振り返り添削や予備添削を進める。学内、学外との共同研究のきっかけを作るため、ブレインストーミング(セミナー)を企画する。 ⑤ 業績における国際共著の重要性について研究科内で周知し、研究内容について国際共同研究を促進させる。研究広報で海外での本研究科の知名度を向上させる。 (再掲:医歯薬学総合研究科(医学系) ②研究領域)	27-① 27-1 33-1 38-1 40-1 49-② 50-① 60-2 61-①	<b>研究領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等</b>  ・研究に関しては研究科に記載					
<b>③社会貢献(診療を含む)領域</b>							
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="width: 40%;"></th> <th style="width: 10%; text-align: center;">関連する 年度計画の番号</th> <th style="width: 50%;"></th> </tr> <tr> <td>1.医療教育センターとの連携による高大接続事業の推進(入試倍率3.0倍以上) 2.デジタルを活用した海外大学との協定や国際交流プログラムの拡充(海外学生派遣数、留学生受入数の減少への代替措置)</td> <td style="text-align: center;">6② 17①</td> <td> <b>社会貢献(診療を含む)領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等</b>                       1.高大接続事業の推進                      昨年まで2年連続広島県の推薦(地域枠)の定員が埋まっていなかったために、今年度は特に広島県の高校に重点的に訪問。近畿大学附属広島高等学校福山校、国立広島大学附属高等学校、国立広島大学附属福山高等学校、修道高等学校、広島県立基町高等学校、福山暁の星女子高等学校、福山誠之館高等学校を訪問し、地域枠の広報活動を実施。結果とし、今年度は広島県をはじめ、地域枠の定員を充足できる見込み。更に、学校訪問等の高大接続事業を通じ、上述のとおり、出願倍率は昨年度の3.7倍から5.5倍へと飛躍的に上昇した。                       2. 海外大学との協定                      オンライン会議等を活用し、オタゴ大学保健学部局と、令和2年6月に国際交流協定(部局間協定)を締結しており、今後、医学科3年次の「医学研究インターンシップ」での学生派遣及び受入を実現し、組織的に派遣、受入を安定的に行うために、令和3年度にオタゴ大学保健学部局と学生交流附属文書を締結。「医学研究インターンシップ」では初の南半球派遣先として、令和4年度派遣・受入実現に向け、調整を進めている。                 </td> </tr> </table>		関連する 年度計画の番号		1.医療教育センターとの連携による高大接続事業の推進(入試倍率3.0倍以上) 2.デジタルを活用した海外大学との協定や国際交流プログラムの拡充(海外学生派遣数、留学生受入数の減少への代替措置)	6② 17①	<b>社会貢献(診療を含む)領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等</b>  1.高大接続事業の推進 昨年まで2年連続広島県の推薦(地域枠)の定員が埋まっていなかったために、今年度は特に広島県の高校に重点的に訪問。近畿大学附属広島高等学校福山校、国立広島大学附属高等学校、国立広島大学附属福山高等学校、修道高等学校、広島県立基町高等学校、福山暁の星女子高等学校、福山誠之館高等学校を訪問し、地域枠の広報活動を実施。結果とし、今年度は広島県をはじめ、地域枠の定員を充足できる見込み。更に、学校訪問等の高大接続事業を通じ、上述のとおり、出願倍率は昨年度の3.7倍から5.5倍へと飛躍的に上昇した。  2. 海外大学との協定 オンライン会議等を活用し、オタゴ大学保健学部局と、令和2年6月に国際交流協定(部局間協定)を締結しており、今後、医学科3年次の「医学研究インターンシップ」での学生派遣及び受入を実現し、組織的に派遣、受入を安定的に行うために、令和3年度にオタゴ大学保健学部局と学生交流附属文書を締結。「医学研究インターンシップ」では初の南半球派遣先として、令和4年度派遣・受入実現に向け、調整を進めている。	
	関連する 年度計画の番号						
1.医療教育センターとの連携による高大接続事業の推進(入試倍率3.0倍以上) 2.デジタルを活用した海外大学との協定や国際交流プログラムの拡充(海外学生派遣数、留学生受入数の減少への代替措置)	6② 17①	<b>社会貢献(診療を含む)領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等</b>  1.高大接続事業の推進 昨年まで2年連続広島県の推薦(地域枠)の定員が埋まっていなかったために、今年度は特に広島県の高校に重点的に訪問。近畿大学附属広島高等学校福山校、国立広島大学附属高等学校、国立広島大学附属福山高等学校、修道高等学校、広島県立基町高等学校、福山暁の星女子高等学校、福山誠之館高等学校を訪問し、地域枠の広報活動を実施。結果とし、今年度は広島県をはじめ、地域枠の定員を充足できる見込み。更に、学校訪問等の高大接続事業を通じ、上述のとおり、出願倍率は昨年度の3.7倍から5.5倍へと飛躍的に上昇した。  2. 海外大学との協定 オンライン会議等を活用し、オタゴ大学保健学部局と、令和2年6月に国際交流協定(部局間協定)を締結しており、今後、医学科3年次の「医学研究インターンシップ」での学生派遣及び受入を実現し、組織的に派遣、受入を安定的に行うために、令和3年度にオタゴ大学保健学部局と学生交流附属文書を締結。「医学研究インターンシップ」では初の南半球派遣先として、令和4年度派遣・受入実現に向け、調整を進めている。					
<b>④管理運営領域</b>							
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="width: 40%;"></th> <th style="width: 10%; text-align: center;">関連する 年度計画の番号</th> <th style="width: 50%;"></th> </tr> <tr> <td>1.教職員・学生へのコンプライアンス及びハラスメント研修の徹底 2.デジタル技術の活用による会議並びに管理運営業務の効率化</td> <td style="text-align: center;">93②</td> <td> <b>管理運営領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等</b>                       1.教職員・学生へのコンプライアンス及びハラスメント研修の徹底                      今年度は5月17日に、ハラスメント防止対策のため、医学系会議・医学科会議に合わせハラスメント研修会を実施し、啓発活動に取り組んだ。また、鹿田地区の各部局と連携し、ハラスメント相談のリーフレットを作成・配付し、ハラスメントに関する相談しやすい環境を整えた。                       2.デジタル技術の活用による会議並びに管理運営業務の効率化                      教員の選考などがない場合は、極力オンライン会議を実施し、運営業務の効率化を図った。                 </td> </tr> </table>		関連する 年度計画の番号		1.教職員・学生へのコンプライアンス及びハラスメント研修の徹底 2.デジタル技術の活用による会議並びに管理運営業務の効率化	93②	<b>管理運営領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等</b>  1.教職員・学生へのコンプライアンス及びハラスメント研修の徹底 今年度は5月17日に、ハラスメント防止対策のため、医学系会議・医学科会議に合わせハラスメント研修会を実施し、啓発活動に取り組んだ。また、鹿田地区の各部局と連携し、ハラスメント相談のリーフレットを作成・配付し、ハラスメントに関する相談しやすい環境を整えた。  2.デジタル技術の活用による会議並びに管理運営業務の効率化 教員の選考などがない場合は、極力オンライン会議を実施し、運営業務の効率化を図った。	
	関連する 年度計画の番号						
1.教職員・学生へのコンプライアンス及びハラスメント研修の徹底 2.デジタル技術の活用による会議並びに管理運営業務の効率化	93②	<b>管理運営領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等</b>  1.教職員・学生へのコンプライアンス及びハラスメント研修の徹底 今年度は5月17日に、ハラスメント防止対策のため、医学系会議・医学科会議に合わせハラスメント研修会を実施し、啓発活動に取り組んだ。また、鹿田地区の各部局と連携し、ハラスメント相談のリーフレットを作成・配付し、ハラスメントに関する相談しやすい環境を整えた。  2.デジタル技術の活用による会議並びに管理運営業務の効率化 教員の選考などがない場合は、極力オンライン会議を実施し、運営業務の効率化を図った。					